

第9回 定例ワールドカフェ (7/16) 感想 (2022.10.12 現在)

話題提供：女子大生のHPVワクチン接種意思とセクシュアリティに関する認知／行動—看護系と一般学部生の比較—

提供者：高知恵さん (大阪公立大学大学院看護学研究科講師)

当日参加者：8名

感想 (Google Form) 回答者：3名 (分野_教育1名、福祉1名、医療1名)

- ・本日は参加させていただき、ありがとうございます。高さんのまとまったわかりやすいお話、とてもよかったです。看護系の学生さんも、講義で初めて子宮頸がんの話聞き、もっと早く聞きたかった、という意見が多いです。せめて中学校3年生で子宮頸がんとその予防について話を聞く機会があればいいなあと思っています。意思決定支援ガイド、もしよければ一緒に作成していただければ嬉しいです。またどこかでお話しできるといいなあ。。今後ともよろしく願いいたします。
- ・高先生、ありがとうございます。先に退出して失礼いたしました。今回は日頃触れることのできる情報とは違うもので、大変勉強になりました。とは言え、厚労省のHPで確認できるものなので、こちらの意識の問題かもしれませんね。うちにも娘がいますが、推奨はされていながらも痛み(精神的)に弱いのでビビって受けられない間に、副作用の話がわっと出てきて、そのまま現在に至っています。30歳になってますので、あとは自費で受けるかを現在悩んでいるようです。まだ、話し合っているほうだとは思いますが、世間では「性交」にまつわる話にもつながるからか、なかなか話題にしにくいのでしょうか。やはり、自分の身体にまつわることとして、性のことも普通に話せる雰囲気ができたらいいのにと強く感じました。それは、女性のことだけでなく、男性も自分事としていろんなことを考えてもらうためにも必要なことではないかと思います。
- ・国や自治体の情報発信も、信用しない、鵜呑みにするという感情ではなく、子どもと子どもに多大な影響がある親に、真の自己決定ができる仕掛けが必要だと改めて思いました。大学の研究者の役割は、根拠を示す研究を行って、肅々と発信することだと思いました。専門家も専門外のことは「わからない」「どう思う？」という場作りが必要だとも思いました。この会の役割はまだまだありそうです。